

| | | | | | | | |
|--|---|-----|--------|---------|--|-------|---------------|
| 授業科目（ナンバリング） | 調剤学（N4F408） （実践的教育科目） | | | 担当教員 | 早川 正信・大久保 伸哉・中島 健輔 （実務経験のある教員） | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 1.5 単位 | 開講年次・時期 | 4 年・前期 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブラーニングの類型 |
| 薬剤師法第一条に謳われている薬剤師の任務のひとつ「調剤」を理解するとともに、高度化・複雑化する社会の医療ニーズに薬剤師として対応し、医療チームの一員として医薬品の適正使用における役割を果たすために必要な基本的知識を修得する。 | | | | | | | ①②⑨ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | <ul style="list-style-type: none"> 処方せん受付から服薬指導までの一連の調剤における用語を理解し、実施事項および実施上の注意点を説明できる。 医薬品の適正使用において果たすべき薬剤師の役割を調剤と関連づけて説明できる。 社会の医療ニーズを把握し、薬剤師としての対応策を提案することができる。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 講義中の質問への回答 定期試験 | 5% | 90% |
| 情報収集、分析力 | | | | | | | |
| コミュニケーション力 | | | | | | | |
| 協働・課題解決力 | | | | | | | |
| 多様性理解力 | <ul style="list-style-type: none"> 患者に多様性があることを理解し、適切な配慮をすることができる。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 講義中の質問への回答 | 5% | |
| 出席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 定期試験の成績を90%、受講態度・授業への参加を10%として評価する。 定期試験は、記述式および多肢選択式の筆記試験とし、調剤の基本概念や医療用語の理解を前提に医薬品の適正使用における調剤の意義および薬剤師の役割を理解しているかを問う。 受講態度・授業への参加は、講義中の質問に回答した回数や内容で評価する。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>病院及び薬局薬剤師としての実務経験を有する教員が、医薬品の適正使用のために、薬剤師が実施する幅広い医療薬剤業務の理解に主眼を置き、講義を進める。薬剤師としての実務経験及び講義に関係する最新のトピックスを講義中に紹介する。授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認し、授業中にフィードバックを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| <p>教科書：特に指定しない 参考書：臨床調剤学（南山堂）一川暢宏/中嶋幹郎（編） スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人） 指定図書：臨床調剤学（南山堂）一川暢宏/中嶋幹郎（編）</p> | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| <p>薬理学、薬剤学、製剤学、医薬品情報論、薬事関係法規等の科目と関連づけることによって薬物療法的一端を担う「調剤」を深く理解し、医療現場で応用できる力を身につけて欲しい。薬剤師は生涯にわたって学び続けなければならないことを理解し、医薬に関する報道に関心を持って欲しい。</p> | | | | | | | |

| 回 | テ ー マ | 授 業 の 内 容 | 予 習 ・ 復 習 | 到 達 目 標 番 号* |
|----|-------------------------|---|-----------------------|--|
| 1 | 調剤学概論 処方せんと調剤の 流れ | 医療人としての薬剤師の役割、生涯研鑽、処方せんに基づく調剤（早川） | 保険処方せんの様式を調べておく | 10、64、65、895、915、916、917、918 |
| 2 | 内用剤・外用剤の 調剤（1） | 薬袋・薬札の作成、内用剤・外用剤の計数調剤（中島） | 経口剤の剤形を調べておく | 864 |
| 3 | 内用剤・外用剤の 調剤（2） | 内用剤の計量調剤、工夫を要する調剤、経腸栄養剤（中島） | 内用剤の処方例を調べておく | 864 |
| 4 | 疑義照会 | 医療用医薬品添付文書の見方、疑義照会の意義と法的根拠（中島） | 医療用医薬品添付文書の記載事項を調べておく | 910 |
| 5 | 注射剤の調剤（1） | 注射剤の種類・特徴、注射剤処方せん、注射剤の計数調剤（大久保） | 注射剤の種類と特徴を調べておく | 866、1002 |
| 6 | 注射剤の調剤（2） | 注射剤の配合変化、注射剤の無菌調製（大久保） | 配合変化の例を調べておく | 929 |
| 7 | 注射剤の調剤（3） | 輸液の種類、栄養輸液の種類と適応、電解質濃度の調整（大久保） | 輸液の種類と適応を調べておく | 1003 |
| 8 | 抗悪性腫瘍薬の調剤 | 抗悪性腫瘍薬の調剤（大久保） | 抗悪性腫瘍薬の調剤時の注意点を調べておく | 1002 |
| 9 | 薬剤の交付・服薬指導 | 服薬指導の意義、薬剤交付時の注意事項、患者からの情報収集と患者への情報提供（早川） | 薬剤交付時の注意事項を調べておく | 37、802、896、945 |
| 10 | 調剤録・医療記録 | 調剤録、医療記録としての薬歴、プレアボイド（早川） | プレアボイドについて調べておく | 802、896、1001 |
| 11 | 薬歴管理 | POS と SOAP（早川） | POS と SOAP について調べておく | 799、800、802、896 |
| 12 | 安全管理 | 調剤薬鑑査、処方から投薬までの過程で生じやすい誤り（早川） | 代表的なインシデント事例を調べておく | 18、19、929、932、972、974 |
| 13 | これからの調剤（1） | 患者特性に応じた処方設計支援と TDM（早川・中島） | TDM の対象薬物を調べておく | 896 |
| 14 | これからの調剤（2） | 超高齢社会における調剤関連の課題と対応策（早川） | ポリファーマシーについて調べておく | 896 |
| 15 | これからの調剤（3） | チーム医療と多職種連携、在宅医療、PBPM（早川） | PBPM について調べておく | 53、54、897、898、1026、1027、1028、1035、1036、1040、1041 |
| 16 | 定期試験 | | | |

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号／項目対応表を参照して下さい。